

Title	33 : 東京歯科大学千葉病院口腔外科における平成 25年度初診患者の臨床統計
Author(s)	有泉, 高晴; 関川, 翔一; 山田, 祥; 太田, 亮輔; 大竹, 祐輔; 花房, 秀行; 船越, 彩子; 渡邊, 美貴; 岩本, 昌 士; 大金, 覚; 右田, 雅士; 山本, 雅絵; 恩田, 健志; 別所, 央城; 成田, 真人; 薬師寺, 孝; 野村, 武史; 須 賀, 賢一郎; 大畠, 仁; 高木, 多加志; 高野, 伸夫; 柴 原, 孝彦
Journal	歯科学報, 114(5): 518-518
URL	http://hdl.handle.net/10130/3452
Right	

No.33：東京歯科大学千葉病院口腔外科における平成25年度初診患者の臨床統計

有泉高晴¹⁾、関川翔一¹⁾、山田 祥¹⁾、太田亮輔¹⁾、大竹祐輔¹⁾、花房秀行¹⁾、船越彩子¹⁾、渡邊美貴¹⁾、岩本昌士¹⁾、大金 覚¹⁾、右田雅士¹⁾、山本雅絵¹⁾、恩田健志¹⁾、別所央城¹⁾、成田真人¹⁾、薬師寺 孝¹⁾、野村武史¹⁾²⁾、須賀賢一郎¹⁾、大島 仁¹⁾、高木多加志¹⁾、高野伸夫¹⁾²⁾、柴原孝彦¹⁾ (東歯大・口外)¹⁾ (東歯大・口腔がんセンター)²⁾

目的：東京歯科大学口腔外科は昭和56年9月、大学の千葉市への移転を機に開設され、地域歯科医師会の協力のもと、医療連携を重視しながら高度医療機関として活動してきた。本学口腔外科は、口腔疾患の治療と抑制、さらに口腔機能の保全と回復に向けて、治療水準を向上すべく、基礎的かつ臨床的研究を積み重ねてきた。また、本学は昨年9月より大学の拠点を水道橋へ移転し、千葉病院は新たな分岐点に立っているといえる。今後の千葉病院における医療提携の内容と質の向上を目指すために、平成25年度の初診患者の臨床統計を行ったので報告する。

方法：今回は平成25年4月1日から平成26年3月31日までの1年間における当科の初診患者を対象として、日本口腔外科学会調査企画委員会が作成した実績調査票に基づき、性別、年齢分布、月別患者数、来院の主訴、来院地域、受診経路、疾患別、基礎疾患の有無についての臨床統計を行った。

結果：期間中に受診した初診患者数は8,615名であった。性差は男性3,145名(36.5%)、女性5,470名(63.5%)であった。年齢は0歳から98歳までで、平均年齢は44歳であった。年齢別患者数は20歳

代が最も多く、このうち歯の疾患、特に埋伏歯関連が多数を占めていた。次いで、30歳代、60歳代が多く、20歳代と比べると基礎疾患有病者率が高くなり、歯周疾患や腫瘍性病変、口腔粘膜疾患の割合の増加が認められた。月別患者数では8月が最も多く、2月が最も少なかった。来科地域はほとんどが千葉県内で、なかでも千葉市が最も多かった。受診経路は他の医院または歯科医院からの紹介受診が過半数を占めていた。疾患別では歯の疾患が過半数を占めていて、ついで顎関節症が多かった。基礎疾患を有している患者は2,589名(30.1%)であり、このうち高血圧症が最も多く認められた。

考察：当科は、基礎疾患を有している患者や高齢の患者が多数来院しているのが現状であるが、今後高齢化社会に伴い、基礎疾患を有している患者のさらなる増加が予想される。院内はもとより今後も地域の医療機関との連携をさらに密なものとし、合併症の併発にも対応できるよう、口腔外科としての専門性に加えて全身管理の充実を図りながら、診療の向上に努めていきたいと考えている。

No.34：東京歯科大学水道橋病院口腔外科における平成25年度外来初診患者の臨床的検討

勝見吉晴、石田結実香、多田海人、福田有美香、藤原 亘、前山恵里、志賀勇昭、高田 満、長谷川大悟、濱田裕嗣、菅原圭亮、村松恭太郎、渡邊 章、山本信治、笠原清弘、高野正行、齋藤 力、柴原孝彦(東歯大・口外)

目的：東京歯科大学水道橋病院は、地域歯科医師会の協力のもと、医療連携を重視しながら高次医療機関として活動してきた。今回、われわれは平成25年4月1日から平成26年3月31日までの口腔外科外来初診患者の臨床的検討を行い、今後の医療提供の内容と質の向上を目指し、今後の東京歯科大学水道橋病院のあり方について検討することとした。

方法：平成25年4月1日から平成26年3月31日までの1年間における当科の初診患者を対象として、日本口腔外科学会調査企画委員会が作成した実績調査票に基づき、性別、年齢分布、月別患者数、来院地域、受診経路、疾患別について調査し臨床統計を行った。

結果：当該期間中の初診患者数は8,023例(男性3,426例;42.9%、女性4,597例;57.1%)であった。年齢は生後1歳から97歳までで、年齢別では20歳代が25.2%を占め最も多く、次いで30歳代で20.6%であった。月別患者数は3月が最も多く、次いで7月、最も少ないのは1月であった。来科地域は東京都が約72.0%を占め、そのうちの63.2%が東京23区内であった。東京23区内では杉並区と江戸川区が5.3%で最も多く、次いで世田谷区であった。東京23区外では西東京市が1.1%と最も多かった。都道

府県別では東京都に次いで、埼玉県が10%、千葉県が8.0%の順で、遠方では北海道や沖縄県からの来院もあった。受診経路は他の医院または歯科医院からの紹介受診がおよそ70%を占めていた。疾患別では歯の疾患が多く、中でも智歯や埋伏歯、歯の位置異常に関する疾患は全体の49.6%を占めていた。次いで、口腔粘膜疾患が多く6.4%であった。また、顎関節疾患が5.9%、炎症は3.9%、顎変形症は3.2%、悪性腫瘍は0.6%、唇顎口蓋裂は0.2%であった。

考察：例年よりも初診患者数の増加を認めた。前年と比較すると月平均100名の増加であった。特に3月は843人と例年に無いほどの初診患者数であった。これは平成26年4月からの増税前の駆け込みの来院も一つの要因と考えられた。

今年度からは、大学本部の移転に伴い、口腔外科学講座の本部も水道橋病院となった。今後は、水道橋病院、市川総合病院、千葉病院の三病院の連携をより深めていき、水道橋病院はあらゆる症例に対する窓口となるような専門性の充実を図り、診療技術と医療連携のさらなる向上に努めていきたいと考えている。